

# 104-260

## 問題文

前問の選択肢1～5に挙げた薬物の作用機序に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

1. クロピドグレルの活性代謝物は、ADP P2Y<sub>12</sub> 受容体を不可逆的に遮断する。
2. シロスタゾールは、ホスホジエステラーゼVを選択的に阻害する。
3. 低用量のアスピリンは、血管内皮細胞のシクロオキシゲナーゼ-2(COX-2)を阻害しにくいため、プロスタグランジンI<sub>2</sub> (PGI<sub>2</sub>)の産生は抑制されない。
4. ヘパリンは、内因性のトロンボモジュリンによる血液凝固因子の不活性化作用を促進する。
5. ダビガトランは、第Xa因子に結合してその活性を阻害することで、プロトロンビンからトロンビンへの変換を抑制する。

---

## 解答

問260 : 1問261 : 4問262 : 2問263 : 1, 3

## 解説

### 問260

問261 とまとめて解説します。

### 問261

3日前からのみぞおち付近の痛み、便が黒い という主訴は、胃潰瘍、及び潰瘍からの出血を示唆します。提案すべきは胃潰瘍治療薬です。

選択肢 1 は妥当です。

ラベプラゾールナトリウムは PPI です。H<sup>+</sup> +、K<sup>+</sup> -ATPase を非可逆的に阻害することにより胃酸分泌を阻害します。

選択肢 2 ですが

チクロピジン抗血小板薬です。胃潰瘍治療薬ではありません。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 ですが

タンニン酸アルブミンは下痢止めです。胃潰瘍治療薬ではありません。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 ですが

ロキソプロフェンナトリウムは痛み止めです。胃潰瘍治療薬ではありません。また、胃潰瘍のある人には避ける薬です。よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 ですが

メビバカインはアミド型の局所麻酔の一種です。胃潰瘍治療薬ではありません。よって、選択肢 5 は誤りです。()

以上より、問260 の正解は 1 です。

また、この薬の作用機序は、H<sup>+</sup> +、K<sup>+</sup> -ATPase を非可逆的に阻害することにより胃酸分泌を阻害です。従って、問261 の正解は 4 です。

### 問262

既往歴を考慮し、抗血栓は継続したい、ということも含めて考えると「1 剤（アスピリン or シロスタゾール）に減量して、1 剤を直前まで継続」が妥当と考えられます。

選択肢 1 ですが

2 剤継続は、ESD の手術リスクの程度から、不適切と考えられます。

選択肢 2 は妥当な提案と考えられます。

選択肢 3 は不適切です。出血リスクをよりあげる変更です。

選択肢 4 ですが

この変更は結局 2 剤継続のようなものなので、ESD の手術リスクの程度から、不適切と考えられます。

選択肢 5 ですが

ヘパリン置換は、ガイドラインによれば、ワーファリン、ダビガトランの置換において推奨されています。本症例では適切ではありません。

以上より、問262 の正解は 2 です。

#### 問263

選択肢 1 は妥当な記述です。

選択肢 2 ですが

シロスタゾール（プレタール）は、ホスホジエステラーゼ（PDE）Ⅲを選択的に阻害することにより作用する抗血小板薬です。PDE V を選択的に阻害するのはシルデナフィル（バイアグラ）です。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 は妥当な記述です。

選択肢 4 ですが

ヘパリンはアンチトロンビン Ⅲ の作用を増強することで抗凝固作用を示します。よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 ですが

ダビガトラン（プラザキサ）は腎排泄型の直接トロンビン阻害薬です。トロンビン（第Ⅱa 因子）活性部位に直接結合して作用します。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、問263 の正解は 1,3 です。